

議会改革・市民病院建設研究会経過報告

議会改革研究会

豊川市議会では、市民にわかりやすい議会にする目的で、議会改革研究会を立ち上げました。

「わかりやすい」ということは「議場にいる議員にわかりやすい」ということはもちろん、傍聴している市民にわかりやすい」ということに最も重きをおいて話し合っています。

例えば、これまで一般質問において、議員が数項目をまとめて質問し、市側も一括して答えていて、「主張と質問がわかりにくい」「形式的で論戦になりにくい」などと指摘がされていたことについて、先進市の視察や、すでに一問一答方式を採用している一宮市議会の一般質問を参考に、一問一答方式の採用の検討など、五月二十六日に第一回の研究会を開催し、現在までに六回実施して、論点の明確化など皆さんがよりわかりやすい議会となるよう真剣に議論しています。

議会改革研究会で検討されています主なものにつきまして、一問一答方式のほかに、「議員が登壇して議員側を向い

て質問していたのを、質問席を設けて理事者と対面式にして議論を行うこと」「三月定例市議会において、各会派代表質問方式とすること」「一人会派について」「決算特別委員会に全議員が参加すること」「議会のインターネットあるいはケーブルテレビの中継をすること」などがあります。

所属メンバー

山脇 実座長、鈴川智彦副座長、野中泰志、高橋智之、牧田千枝子、藤原宏樹、鈴木彰伯、佐藤郁恵、川上陽子、井上和也、波多野 年、山内 学、石黒規吉、清水春男の各委員の十四人、オブザーバーとして滝下充生議長、坂本松次郎副議長

市民病院建設研究会

豊川市の一大事業である、新市民病院建設に向けて、市議会として調査研究する目的で、本年七月に市民病院建設研究会を立ち上げました。

現在までに、五回の研究会を開催し、市民病院事務局から資料を提供してもらい、豊川市民病院の概要、経営状況、県内他

市民病院と比較した状況などの説明を受け、質疑などを行いました。

また、議会として新市民病院建設候補地選定にあたっての要望書を研究会でまとめ、九月二十一日に正副座長が市長へ提出しました。要望書の概要は以下のとおりです。

一 立地について——周辺環境に配慮・交通の便の良さ・駐車場台数の確保・幹線道路が備わっていることなど。

二 災害対策について——自然災害の影響を受けにくく、地盤が強固・災害時の中核救護施設としての情報収集発信機能の充実など。

三 土地価格について——高価とならないための配慮・国有地利用の検討など。

四 交通アクセスについて——バス路線の確保・公共交通機関の利用ができるなど。

五 総合について——市民の理解が得られる場所、低層型パリアフリーの重視、広域医療圏の高度医療の中核機能、救急病院としての充実など。

大きな五項目を柱とする要望をしました。今後とも、市民の期待を反映させるべく、調査研究を続けてまいります。

所属メンバー
鈴川智彦座長、松井忠雄副座長、大倉 淳、兼佐誠一、平松保則、中村直巳、大野良彦、西川米子、井上和也、波多野 年、米谷俊子、鈴木義章、石畔八良、近田富王の各委員の十四人、オブザーバーとして滝下充生議長、坂本松次郎副議長



近年、全国から年間に数百万人が「讃岐うどんを食べ歩く」という目的で香川県を訪れ続けているといえます。この空前の讃岐うどんブームは若者文化から生まれたそうです。

現在、社会や会社では多くの五十、六十代の世代が権限を持って、いろいろな施策を決定しているため、その結果若者を中心とする施策が抜け落ちていきます。

議会だよりも若者世代にも振り向いてもらえるような魅力的な広報にしていきたいと思っています。

編集委員 藤原 宏樹